

再 評 価 調 書 (案)

I 事業概要							
事業名	漁港漁場事業（漁港環境整備事業）						
地区名	豊浜漁港						
事業箇所	知多郡南知多町大字豊浜						
事業のあらまし	<p>本漁港は、知多半島先端に位置し、釣り客の他、周辺には魚の直販所や料理旅館等が数多く立地していることから、年間約80万人の観光客が訪れている。</p> <p>しかし、周辺には広場や駐車場も少なく、一般来訪者や釣人が漁業活動の場に侵入し、漁業者の漁業活動に支障をきたす状況となっていた。</p> <p>このような状況を改善するため、新たに釣棧橋や広場的緑地を整備することで、一般来訪者と漁業者の活動エリアを分離するとともに、都市との交流促進による漁港活性化を図るものである。</p>						
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>漁港内に釣棧橋や広場的緑地を整備することにより、安全かつ快適で活気のある漁港地域の形成を図る。</p> <p>【達成（副次）目標】</p> <p>該当なし。</p>						
計画変更の推移		事業採択時 (H12)	再評価時 (H17)	再々評価時 (H22)	再々再評価時 (H27)	変動要因の分析	
	事業期間	H13～H18	H13～H23	H13～H28	H13～H31	樹種選定に伴う試験植栽の延長より期間延伸	
	事業費(億円)	9.0億円	9.0億円	6.1億円	6.1億円	変動なし	
	経費内訳	工事費	9.0億円	9.0億円	6.1億円	6.1億円	変動なし
		用補費					
事業内容	緑地 A=16,372㎡ 釣棧橋 L=150m	緑地 A=16,372㎡ 釣棧橋 L=150m	緑地 A=7,345㎡ 釣棧橋 L=150m	緑地 A=7,345㎡ 釣棧橋 L=150m	緑地 A=7,345㎡ 釣棧橋 L=150m	変動なし	
II 評価							
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事前評価時(H12)の状況】</p> <p>本漁港では、毎年多くの観光客や釣人が訪れているが、漁業活動エリアに一般の人や車が進入し、漁船の安全航行や車両による水産物の運搬作業に支障をきたしていると漁組より指摘を受けている。これらの要因から、来訪者と漁業者の活動エリアを分離する施設整備が望まれている。</p> <p>【再評価時(H17, H22, H27)の状況】</p> <p>南知多町への来訪者に大きな変化はなく、また周辺に同種の漁港緑地も整備されていない。よって、課題は解決されておらず、必要性に変化はない。</p> <p>【変動要因の分析】</p> <p>特になし</p>					
	判定	B	<p>A：再々評価時に比べ必要性が増大している。</p> <p>B：再々評価時に比べ必要性にほとんど変化がない。</p> <p>C：再々評価時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】</p> <p>事業の必要性は再々評価時(H22)とほとんど変化がないため。</p>				

1) 進捗状況

【事業計画及び実績】

		H21まで	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
工種 区分	調査・設計	←→						←→				
	工事	←										→
	・釣棧橋	←→										
	・緑地		←									→
事業費 (億円)	計画	2.5	2.4				2.4					
	実績		1.2									

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況	
	計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	進捗率(%) 【②÷③】
面積(m ²)	3,582	418	12%	7,345	6%
事業費(億円)	4.9	3.7	76%	6.1	61%
工事費	4.9	3.7	76%	6.1	61%
用補費					
その他					

【施工済みの内容】

釣棧橋、緑地の一部

【事後評価に準ずるフォローアップ】

該当なし

2) 未着手又は長期化の理由

波しぶきや強い西風を受ける場所であることから、試験植栽（H24 末）を実施したが、1年後の植生状態が想定以上に悪く、樹種の選定が困難であったため、観察期間を延長し、慎重に検討を行った。これにより、事業期間を延長する必要が生じた。

3) 今後の事業進捗の見込み

【阻害要因】

今後の阻害要因はない。

【今後の見込み】

阻害要因が解消されたため、平成 31 年度の完了を見込んでいる。

判定

B

A：事業は順調であり、計画通り確実な完成が見込まれる。

B：多少の阻害要因があるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。

C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。

【理由】

事業期間は延長したが、ほぼ計画通りの完了が見込まれる。

③事業の効果の変化	1) 貨幣価値化可能な効果(費用対効果分析結果)の変化	<p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析の算定基礎となった要因変化の有無】 南知多町人口、漁業者数、想定緑地来訪者数を現時点での情報に更新している。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析結果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>再々評価時 (基準年:H21)</th> <th>再々再評価時 (基準年:H27)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>事業費</td> <td>6.04</td> <td>6.32</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>0.46</td> <td>0.72</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計(C)</td> <td>6.50</td> <td>7.04</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="6">効果 (億円)</td> <td colspan="2">景観改善効果・地域文化保全・継承効果</td> <td>2.70</td> <td>2.92</td> </tr> <tr> <td colspan="2">漁業就業者の労働安全改善効果</td> <td>0.08</td> <td>0.10</td> </tr> <tr> <td colspan="2">施設利用者の利便性向上</td> <td>21.30</td> <td>22.84</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計(B)</td> <td>24.08</td> <td>25.86</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(参考) 算定 要因</td> <td>消費者余剰(円/人)</td> <td>7,776</td> <td>7,776</td> </tr> <tr> <td>来訪者(人/年)</td> <td>13,500</td> <td>12,400</td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析効果(B/C)</td> <td>3.70</td> <td>3.67</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【貨幣価値化可能な効果(費用対効果)分析手法】 水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン(平成27年4月)</p> <p>【変動要因の分析】 費用対効果分析の算定基礎となった要因に大きな変化はない。</p>	区分		再々評価時 (基準年:H21)	再々再評価時 (基準年:H27)	備考	費用 (億円)	事業費	6.04	6.32		維持管理費	0.46	0.72		合計(C)	6.50	7.04		効果 (億円)	景観改善効果・地域文化保全・継承効果		2.70	2.92	漁業就業者の労働安全改善効果		0.08	0.10	施設利用者の利便性向上		21.30	22.84	合計(B)		24.08	25.86	(参考) 算定 要因	消費者余剰(円/人)	7,776	7,776	来訪者(人/年)	13,500	12,400	費用対効果分析効果(B/C)		3.70	3.67	
	区分		再々評価時 (基準年:H21)	再々再評価時 (基準年:H27)	備考																																												
	費用 (億円)	事業費	6.04	6.32																																													
維持管理費		0.46	0.72																																														
合計(C)		6.50	7.04																																														
効果 (億円)	景観改善効果・地域文化保全・継承効果		2.70	2.92																																													
	漁業就業者の労働安全改善効果		0.08	0.10																																													
	施設利用者の利便性向上		21.30	22.84																																													
	合計(B)		24.08	25.86																																													
	(参考) 算定 要因	消費者余剰(円/人)	7,776	7,776																																													
		来訪者(人/年)	13,500	12,400																																													
費用対効果分析効果(B/C)		3.70	3.67																																														
2) 貨幣価値化困難な効果の変化	<p>【事業着手時の状況】 該当なし</p> <p>【再評価時、再々評価時、再々再評価時の状況】 該当なし</p> <p>【変動要因の分析】 該当なし</p>																																																
判定	<p>A A: 再々評価時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B: 再々評価時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C: 再々評価時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。</p> <p>【理由】 算定要因に大きな変動がないため。</p>																																																
III 対応方針(案)																																																	
継続	<p>中止: 上記①~③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続: 上記以外のもの。</p>																																																
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容																																																	
<p>■対象(事業完了後 5年目) □対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>【主な評価内容】 釣棧橋及び緑地の利用状況(来訪者数)の把握、確認を行う。</p>																																																	
V 事業評価監視委員会の意見																																																	
VI 対応方針																																																	

